様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	社会系コース／木原　克司

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

授業の中で課題を与え、実習形式を取り入れて学生に共同作業を通して課題を解決することを学ばせたい。具体的には、地理学概論における地形図と空中写真を活用した地形判読であり、考古学や博物館資料論などでの考古遺物（勾玉）の作成法を実際に石を加工させることにより学ばせることなどである。

2．点検・評価

教員として学校現場に赴任した際の社会科の課題解決学習の方法と実践を学ばせるために、可能な限り実習形式を取り入れ、学生に共同作業を通して与えられた課題を解決する授業を計画した。地理学概論では地形図と空中写真を活用し地形判読を行わせた。考古学や博物館資料論では、勾玉の作製を通して古代人の装飾品作製技法を習得させた。また、考古学では、本学FD活動として縄文文化と弥生文化の相違をテーマとし模擬授業を実施した。受講生にグループごとに調べ学習を行わせ発表させた上で、縄文・弥生の全時期の土器を徳島県埋文センターから借用し、文化の相違を使用土器の相違を通して学習させ、授業参観者や受講生から大きな評価を得た。さらに、大学院の地理学研究Ⅰでは、例年通り授業内容の理解と学校現場での授業への応用力を高めるため、現地巡検での現地講義を行った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

学生の卒論や課題研究の指導については、これまでと同様に2名の教員での合同演習を通して指導・助言を行うとともに、指導教員としてマンツーマンで積極的な指導を実施する。近年急増して来た大学院の長期履修生に対しては、1年生の段階から学部授業の中で生活や研究・就職についてより細かな指導・助言を行いたい。

２．点検・評価

学部学生はいなかったが、所属する2名の院生に対しては、2名の教員での合同演習を通して課題研究の指導・助言を行うとともに、指導教員として2名の院生に対して資料収集、研究の進め方や教員採用試験に備えた対策（とりわけ集団・個人面接）についてマンツーマンで指導した。その結果、2名の院生のうち１名を大阪府（中学校）に合格させることが出来た。もう1人も香川県（小学校）の2次試験まで進んだが、残念ながら運悪く不合格となった。その院生とは後日その原因について話し合い、面接での失敗が影響したとの結論に達した。当人には改めて面接時の対応について指導し、今年度の採用試験に向けての改善点について指摘しておいた。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

平成22年３月に科学研究費の成果を含めてこれまでの研究の一部をまとめた論文により博士の学位を取得できたので、23年度はこれを出版することにしている。また、学位論文の出版と平行して、従来から進めて来た古代阿波国の条里と交通路の研究を行い、2編程度の論文を学会誌に投稿する予定である。

２．点検・評価

平成２３年３月に博士の学位を取得したので、博士論文の出版に向けて日本宮都の最新資料を取り入れて執筆内容に一部変更を加えるなど準備を進めて来た。ただ、その作業が若干遅れているため当初の予定よりやや遅れている。また、こうした作業と平行して、従来から進めて来た古代阿波国の条里と交通路に関連する論文２編を作成した。「古代阿波国吉野川下流域の歴史的景観―条里呼称、道路網、東大寺領新島荘の位置比定と阿波国府の構造を中心に―」（徳島地理学会論文集１２）と日本都城に関する論文「日本都城における条坊制都城の成立とその政治・社会的要因」（琵琶湖と地域文化、サンライズ出版）

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

各種委員会・教授会・部会・講座会議等の学内の各種会議に出席し、職務を遂行する。平成22年度は大学院院生も290名に達したが、定員を充足を満たしていないため、各種学会等への出席を利用してさらに積極的に院生確保のための運動を行いたい。

２．点検・評価

学内では施設整備委員会や図書館運営委員会などに出席し職務を遂行するとともに、大学院の定員充足のため歴史地理学会（山口大学）、人文地理学会（立教大学）や条里制・古代都市研究会（奈良文化財研究所）などの学会に出席し院生確保のための活動を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

附属学校の研究授業には、時間の許す限り積極的に参加し助言をするつもりである。また、教育支援講師・アドバイザー等の派遣事業に積極的に協力し、県内外の小・中・高等学校、教育機関、民官団体などで助言や講演を行う。さらに、県内市町村の教育委員会の委員会・審議会等で専門的な立場から助言を行い、教育文化行政に積極的に協力する。

2. 点検・評価

８月に瀬戸中学校で「古代の都の構造」と題する講義を行い、１２月には徳島県立総合大学校で「古代阿波国吉野川下流域の交通路と阿波国府」と題する講義を行うなど、教育支援講師・アドバイザー等の派遣事業に積極的に協力した。また、美馬市の国指定史跡である郡里廃寺の整備委員会や石井町の国指定史跡である阿波国分尼寺の整備委員会に委員長として出席し、専門的な立場から助言を行い整備授業を進めた。さらに、鳴門市文化財審議委員会（委員長）や徳島県埋蔵文化財センター評議員会（評議員）にも出席し、文化財の保護・運営にも協力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

大学院院生の定員確保、とりわけ社会系コースの院生確保のため学会等で他大学の教員に本学受験を依頼した。また、2名の指導院生のうち１名を教員採用に合格させ大学院の教員採用率アップに若干ながら貢献できた。